

5/10『福音の奉仕者たち』(ピリピ2:19~30)

長谷川 望牧師

- *教会の伝道活動や様々な奉仕活動は一人ではできらうか。主イエスも弟子たちを2人一組で遣わされた。パウロも3回の伝道旅行にバルナバ、マルコ、シラス、ルカ、テモテなどの弟子たちを連れていった。いわばチームで伝道したのだが、それは、安心、安全のためであったと同時に、「福音の喜び」をチームが共に分かち合い、キリストの愛を証しすることが必要であったからである。
- *テモテについて「だれもみな自分のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことを求めてはいません。しかし、テモテの立派な働きぶりは、あなたがたの知っているところです。子が父に仕えるようにして、彼は私と一緒に福音に奉仕してきました。」(2:21~22)テモテはこのピリピ人への手紙を始めパウロの6つの手紙の共同執筆者となっているほどパウロに愛され、信頼を受けていた。テモテはまだ若かったけれども、パウロは「同じ心」になることができたと言う。私たちの教会も、二人以上の方が、自分自身のためではなく、主のみに仕えるという「同じ心」をもって奉仕できれば大きな力になるだろう。
- *エパフロデトについて。パウロは「私の兄弟、同労者、戦友」と呼んだ。彼もパウロと一緒に一つの目的、すなわち福音の伝道のために働いた。「彼のような人には尊敬を払いなさい」という。「なぜなら、彼は、キリストの仕事のために、いのちの危険を冒して死ぬばかりになったからです。彼は私に対して、あなたがたが私に仕えることのできなかつた分を果たそうとしたのです。」(2:30)彼は重病にかかったが助けられた。パウロはピリピの教会の人たちのためにも、エパフロデトを故郷ピリピへ返したいと願っていた。パウロの愛と親心が現れている。
- *パウロ自身も「一つのとげ」すなわち、何かわからないが慢性病を持っていた。それは「私が高ぶることのないように、私を打つためのサタンの使いです。」また、「主の力は、弱さのうちに完全に現れる」(Ⅱコリント12:7~9参照)テモテも身体的弱さを持っていた。現代でも病気を持つ伝道者も多い。病は、彼を誇らせず、立ち止まってストップをかけるために神が与えられた「薬」である。チームで祈り、支え合っていくことが必要である。